

## 平成 25 年度第 1 回臨時理事会議事録

日時：平成 25 年 5 月 9 日(土) 11:10～12:35

場所：ロイトン札幌 3 階 ロイトンホールD

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇

理事：岩下 光利、石原 理、海野 信也、大道 正英、片渕 秀隆、嘉村 敏治、吉川 史隆、  
工藤 美樹、小林 浩、堂地 勉、深谷 孝夫、平松 祐司、水沼 英樹、水上 尚典、  
峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之、吉村 泰典

監事：岡村 州博、和氣 徳夫

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、岸 裕司、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、  
佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、難波 聡、  
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

専門委員会委員長：青木 陽一

理事会内委員会委員長：井坂 恵一、齋藤 滋、竹下 俊行、竹田 省

第 66 回プログラム委員長：濱田 洋実

名誉会員：清水 哲也、雨宮 章、関場 香

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、増野 招代

11 時 10 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 25 名のうち、20 名が出席し（落合和徳副理事長、宇田川康博理事、木村正理事、上妻志郎理事、田中憲一理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、岡村州博監事、和氣徳夫監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

冒頭に第 65 回学術集会長の櫻木範明先生から挨拶があった。

### I. 平成 24 年度第 4 回理事会議事録の確認

原案通り、承認した。

### II. 業務担当常務理事報告

#### 1) 総務 (岩下光利理事)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①山田貞一功労会員(長野)が昨年 10 月 1 日にご逝去された。(長野地方学会から 3 月 22 日報告受領)

- ②鳥越正名誉会員(山口)が3月15日にご逝去された。(山口地方学会から3月28日報告受領)
- ③石塚孝夫功労会員(栃木)が3月16日にご逝去された。(弔電・供花手配、4月4日退会届受領)
- ④林要功労会員(香川)が3月16日にご逝去された。(香川地方学会から3月25日報告受領)

(2) 学術集会中のビジネス会議のスケジュールについて (確認) [資料: 総務1]

(3) 平成25年度定時総会次第(案) およびビジネスミーティング日程について[資料: 総務2]  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 第69回学術集会長候補者の公募について [資料: 総務3]

「会員へのお知らせ」をホームページおよび機関誌6月号に掲載したい。  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 医道審議会医師臨床研修部会での報告について [資料: 総務4]

**小西郁生理事長**「4月25日の医師臨床研修部会で日本小児科学会、日本精神科学会、日本医師会とともに参考人としてヒアリングを受けた。再必修化はかなり厳しい雰囲気であったが、今後も継続して訴えていく必要がある。」

(6) 予防接種法の一部改正における対象疾病名を「ヒトパピローマウイルス感染症」から正しい用語である「子宮頸がん」に修正する要望書を厚生労働大臣あてに、子宮頸がん征圧をめざす専門家会議、日本産婦人科医会、日本対がん協会と連名で提出した。 [資料: 総務5]

(7) 体外受精—胚移植における黄体補充薬としてのプロゲステロン腔坐剤の早期承認に関する要望書を厚生労働大臣あてに提出した。 [資料: 総務6]

(8) 本年2月に最高裁で産婦人科医の当直を時間外労働であると認める判決が出たことを受けて、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」を本会ホームページに掲載するとともに、産婦人科を有する病院管理責任者あてに「産婦人科医に対する適正な処遇実施のお願い」を送付した。  
[資料: 総務7]

(9) 日本専門医制評価・認定機構研修施設委員会に対して、同委員会で取りまとめている研修施設整備指針についての意見を提出した。[資料: 総務8、8-1、8-2、8-3]

**小西郁生理事長**「新しい第三者機関ができて各学会が責任をもって専門医制度を運営していくことは変わらない。また総合診療専門医はまだディテールを詰める必要があり、本会からも意見をいつていきたい。」

**峯岸敬理事**「総合診療専門医については、内科のなかでは議論になっており、そこで少し揉んでもらった方がよい。」

(10) 若手医師確保のためのワーキンググループ報告 [資料: 総務9]

**平松祐司委員長**「マッチングに参加した2010年度学生アンケートの将来進みたい診療科では産婦人科は5.3%。これに国家試験合格者数を掛けると421名になるが、本会入会者は406名であり、

初期研修段階で希望者を逃していることになる。」

(11) 平成 25 年度日本産科婦人科学会予定表について (確認) [資料: 総務 10]

(12) 平成 24 年度新入会員数について [資料: 総務 11]

(13) 日本医学会との間に、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会に関する覚書を締結した。[資料: 総務 12]

(14) 第 67 回学術集會を担当するコンベンション会社の選定について

3 月 9 日に候補委託会社 3 社のプレゼンテーションを実施し、株式会社コングレに委託することとなった。

(15) 「妊娠している、あるいは授乳中の婦人に対しての鳥インフルエンザ感染に対する対応 Q&A」を本会ホームページに掲載した。[資料: 総務 13]

(16) 大森夏織弁護士、新藤えりな弁護士から、母体の出血性ショックについての申入書を受領した。

[資料: 総務 14]

**海野信也委員長**「この件についてはコンセンサスミーティングで議論を行う予定ではあるが、事実関係が明確でないこともあり、本会が現段階で直接に対応することは不要と考える。」

(17) 一般社団法人日本臨床検査薬協会の近見永一先生から LH 検査薬の OTC 化について、本会から厚生労働省あてに要望書を提出していただきたい、との依頼があった。[資料: 総務 14-1]

**吉村泰典理事**「この検査薬は一般的に使われていることは知っているが、医学的品質について本会が認識している訳ではなく、厚生労働省に要望書を出すことはお断りした方がよい。」

**石原理理事**「この検査薬が妊娠率を高めるために有効であるというエビデンスはない。またこの薬はドラッグストアなどで入手可能となっている現実があるなかで、ここで要望書を出す必要性がない。」

他に意見はなく、本件はお断りすることが了承された。

(18) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 卵巣腫瘍取扱い規約第 1 部組織分類ならびにカラーアトラス (第 2 版) 増刷依頼  
同書籍発刊元である金原出版(株)より 1,000 部増刷依頼があったのでこれを承認した。

(ハ) 周産期委員会

① 「胎児心拍数図の用語及び定義」改定案の提案について [資料: 総務 15]

**海野信也委員長**「この件は本会ホームページでパブリックオピニオンを求め、周産期委員会でまとめたものであり、ご承認をいただきたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

② 「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策 5 ケ条」について、日本周産期新生児医学会から日本産科婦人科学会、日本小児科学会との連名で出したいので検討してほしい、という依頼があつ

た。本会としてこれを応諾したい。[資料：総務 16]  
**海野信也委員長**「厚生労働省は、これを学会の一般向けホームページに掲載することを要望している。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(二) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

4月30日現在、入金済6,155冊、校費支払のため後払希望 27冊。

(ホ) 平成25～26年度の専門委員会委員について [資料：総務 17]  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(19) 事務局入口のセキュリティ工事について、富士ビジネス、コクヨマーケティング、セキュリティデザインの3社に見積りを取った。そのうち最低価格(699千円。他は924千円、817千円)を提示した富士ビジネスに工事を依頼することとしたい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[Ⅱ. 官庁関係]

(1) 内閣府

内閣府大臣官房公益法人行政担当室より、母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法の施行に伴う対応についての協力依頼を受領した。

**吉村泰典理事**「内閣府の少子化危機突破タスクフォースでは、12歳になったら産婦人科に罹ろうという運動を進めたり、女性の健康手帳を作ろうということで検討を行っている。国としてはこの領域に力を入れていこうとしており、産婦人科としてもこれに協力していきたい。」

(2) 厚生労働省

①同省医薬食品局より、サリドマイド製剤およびレナリミド製剤の使用に当たっての安全管理手順の改訂についての注意喚起及び周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。

②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課は、地方自治体母子保健主管部局長及び関係団体理事長あてに「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」の指針についての周知依頼を発信した。

③同省雇用均等・児童家庭局母子保健課および健康局結核感染症課より、予防接種法改正に伴う母子保健法施行規則の一部改正と母子健康手帳の任意記載事項様式の改正についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知した。

④同省健康局結核感染症課より、風しんに関する厚生労働省のホームページを更新したことの周知依頼があったので、本会ホームページに掲載した。

⑤同省保険局保険課より、出産育児一時金等の受取代理制度の届出について、会員への周知依頼を受領した。[資料：総務 18]

[Ⅲ. 関連団体]

(1) 日本医学会

①日本医学会が平成26年度から一般法人化するにあたり、各分科会に費用分担を求めることになった。正式な請求は今秋となるが、本会負担は概算で165万円程度となる。

②日本医学会法人化組織委員会委員選出の依頼を受領した。任期は平成25年5月から平成27年3月までであり、岩下光利先生に重任をお願いした。

(2) 日本 IVR 学会

昨年 10 月に日本 IVR 学会が作成し本会も協力した「産科危機的出血に対する IVR 施行医のためのガイドライン 2012」について、日本医療機能評価機構から Minds に掲載することの依頼が同学会にあり、同学会はこれを了承する予定であるが、このことについての本会の意見の有無を求めてきた。[資料：総務 19]

本会も了承することにつき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

①同会議では「子宮頸がん予防ワクチン適正接種の促進に関する考え方」を、本会、日本産婦人科医会、日本小児科学会、日本婦人科腫瘍学会など 8 団体で共同メッセージとして社会に発信していきたいとして、本会に対して賛同を求めてきたのでこれを応諾した。

②子宮頸がんワクチン接種の副作用被害者が連絡会を設立した。

(4) 日本がん治療認定医機構

同機構より、5 月 17 日開催の 2013 年度関連学会連絡委員会の案内を受領した。日本婦人科腫瘍学会と兼務で紀川純三先生に出席をお願いした。

(5) 予防接種推進専門協議会

同協議会が日本医師会と共同で実施し本会も協力した「7 ワクチンの定期接種化を求める署名活動」で集めた署名を、厚生労働大臣あての要望書とともに提出したとの報告を受けた。

[IV. その他]

(1) 第 54 回日本臨床細胞学会総会 (2013 年 6 月 2 日、品川プリンスホテルで開催) 市民公開講座「知っていますか? 新しくなる子宮頸がん検診」の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(2) 日本学術振興会より 6 月 14 日期限内で、第 4 回日本学術振興会育志賞の推薦依頼を受領した。

(3) 黒住医学研究振興財団より 5 月 31 日期限内で、研究助成事業募集及び小島三郎記念文化賞の推薦依頼を受領した。

(4) 東京顕微鏡院より 6 月 30 日期限内で、遠山椿吉記念健康予防医療賞の推薦依頼を受領した。

(5) 慶應義塾大学大学院の「先端医療技術に関する法制度の学際的研究体制の構築支援」プロジェクト事務局より、本会ホームページに掲載されている「倫理的に注意すべき事項に関する見解」の大半に当たる 13 見解についての同プロジェクトデータベースへの転載許可依頼があり応諾した。

(6) 中外製薬より本会から推薦した 5 名の評価委員による「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価検討会の開催依頼を受領した。各評価委員からは

検討会開催了承の回答をいただいている。

- (7) 第53回日本生殖医学会総会（2013年11月15～17日、神戸国際会議場および神戸ポートピアホテルで開催）市民公開講座「カップルで取組む不妊治療」の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

## 2) 会 計（岡井 崇副理事長） 特になし

## 3) 学 術（峯岸 敬理事）

### (1) 学術委員会

#### (イ) 会議開催

①第65回学術講演会 IS Award 選考委員会を5月10日に開催する予定である。

### (2) プログラム委員会関連

#### (イ) 第65回学術講演会プログラム委員会 なし

#### (ロ) 第66回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム座長について

シンポジウム1（周産期）： 藤森敬也 教授（福島県立医科大学）

シンポジウム2（腫瘍）： 岡本愛光 教授（東京慈恵会医科大学）

シンポジウム3（生殖/女性ヘルスケア）： 原田省 教授（鳥取大学）

が平成24年度第4回理事会で承認され、委嘱した。

藤森敬也 教授よりシンポジウム1のco-chairmanとして 板倉敦夫 教授（埼玉医科大学）

岡本愛光 教授よりシンポジウム2のco-chairmanとして 加藤聖子 教授（九州大学）

原田省 教授よりシンポジウム3のco-chairmanとして 大須賀穰 准教授（東京大学）

が推薦された。

#### (ハ) 第67回学術講演会プログラム委員会 なし

## 4) 編 集（上妻志郎理事欠席につき、岡井崇副理事長）

### (1) 会議開催

5月31日に第1回編集担当理事会を開催する予定である。

### (2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2013年投稿分（4月25日現在）

投稿数377編（うちAccept 18編、Reject 148編、Withdrawn/Unsubmitted 73編、Under Revision 31編、Under Review 107編、Pending 0編、Expired 0編）

### (3) JOGR 増頁について

①昨年未までで掲載待ちの論文が約380頁になることが判明したので、契約頁外に300頁を超過した場合の1,868,000円の支出増をお認めいただきたい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

②第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会時の Presidential Symposium dedicated to Professor Seiichiro Fujimoto、Clinical Trials for Lymphadenectomy in Endometrial Cancer in the Post-ASTEC/Post-SEPAL Era の演者 6 名の講演要旨を JOGR に掲載の予定 (約 50 頁) であるが、掲載が来年になる見込みであるため来年発行予定頁数に含め、次期編集委員会において契約ならびに予算立てについて協議する予定である。

(4) 次期、編集委員会への引き継ぎ事項としては

- ①転載許諾に関する内規の見直し
- ②JOGR AE の任免についての文書化
- ③JOGR AE の増員 (理事所属機関より幹事とは別に 1 名ずつの AE 推薦をお願いする等の考慮)
- ④和文誌のオンライン校正システムに投稿システムも組込むことに関しての費用対効果の検証等を予定している。詳細については 5 月 31 日に検討する予定である。

## 5) 渉外 (木村 正理事欠席につき、上田豊主務幹事)

(1) 会議開催

第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会会期中に海外ゲストとのミーティングを開催の予定である。 [資料: 渉外 1]

**上田豊幹事**「このうち、SOGC とのミーティングは先方の都合により、キャンセルとなった。」

[FIGO 関係]

(1) 2 月 2~3 日にロンドンにて FIGO Officers meeting が開催された。 [資料: 渉外 1-1]

(2) 第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会のセッションの合間に、FIGO2015 への参加をよびかけるスライドを上映することとなった。

[AFOG 関係]

(1) ACOG 2013 (10 月 20~23 日、於: バンコク) 開会式にて武谷雄二監事に Fellowship が授与されるにあたり、木村正渉外担当常務理事が citation を担当する予定である。

(2) 韓国からの Fellow である Professor Byoung Choo Bai ご逝去にあたり、御子息へ本会より弔文を送った。

[ACOG 関係]

(1) The American College of Obstetricians and Gynecologists Neonatal Encephalopathy Task Force Report "Neonatal Encephalopathy and Neurologic Outcome 2nd Edition" の endorsement について、了承するが本会意見を検討のうえで提出することとした。

[KSOG 関係]

(1) 小西郁生理事長が KSOG 名誉会員に推挙された。第 99 回 KSOG 学術講演会(2013 年 9 月 26～28 日)にて表彰される予定である。

(2) The 99th Annual Congress of KSOG 2013 & the 18th Seoul International Symposium について、KSOG より Invitation を受領した。

(3) 次期日韓コーディネーターについては、嘉村敏治先生にお願いしたい。  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[SOGC 関係]

Exchange Program の中断について [資料：渉外 2]

**上田豊幹事**「SOGC より Exchange Program の中断の申し入れがあった。先方の財政的理由であり、これを受入れざるをえないと考える。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 平成 26 年度診療報酬改定提案について、厚生労働省保険局医療課より医療技術評価提案書および記載要領等が発信された。内保連、外保連を経由し、最終的な厚生労働省への提出期限は 6 月 21 日である。 [資料：社保 1]

**平松祐司理事**「血糖の自己測定について、頻度が少ないので GDM に広げたいと考えている。日本糖尿病妊娠学会や日本糖尿病学会などの関連学会で一致して内保連に要望を出したいので協力してほしい。」

**吉川裕之理事**「厚生労働省とも交渉したことがあるが、対象者が GDM 患者全体の 8 万人では多すぎるので、対象者を減らす戦略が必要である。今回は間に合わないのではないかな。」

(2) 先進医療として腹腔鏡下子宮体がん根治手術を実施している 22 施設における手術実施件数調査結果について

① 平成 24 年 3 月 31 日までに、先進医療として行われた腹腔鏡下子宮体がん根治手術実施件数:81	② 平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までに、先進医療として行われた腹腔鏡下子宮体がん根治手術実施件数:223	③ 平成 23 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までに上記 1)、2)の先進医療以外に、行われた子宮悪性腫瘍手術(腹腔鏡下)実施件数:274
---	---	---

## 7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 日本専門医制評価・認定機構

4 月 24 日に「基本領域 18 学会との連絡会議」が開催され、小西理事長が出席した。

- (2) 5月11日15時20分より「指導者のための講習会」が、ホテルさっぽろ芸文館ニトリ文化ホールで開催される。

## 8) 倫理委員会 (落合和徳委員長欠席につき、榊原秀也主務幹事)

- (1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成25年4月30日)
- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
  - ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：577 施設
  - ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：577 施設
  - ④ 顕微授精に関する登録：519 施設
  - ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設
- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について  
4月24日現在申請 327 例 [承認 267 例、非承認 4 例、審査対象外 19 例、取り下げ 2 例、照会 18 例、審査中 17 例] (承認 267 例のうち 7 例は条件付) [資料：倫理 1]
- (3) 会議開催
- ① 平成25年度第1回着床前診断に関する審査小委員会を4月4日に開催した。
  - ② 平成25年度第1回倫理委員会を4月23日に開催した。
  - ③ 平成25年度第2回着床前診断に関する審査小委員会を5月2日に開催した。
  - ④ 「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解／考え方」に関する改定ワーキンググループ委員会を5月14日に開催する予定である。
  - ⑤ 平成25年度第2回倫理委員会を5月21日に開催する予定である。
- (4) 日本医学会の第1回認定・登録部会が3月26日に開催され、申請のあった15施設を認可した。  
第2回認定・登録部会は4月30日に開催され、6施設を認可した。

## 9) 教育 (八重樫伸生理事)

- (1) 会議開催  
5月31日に第1回若手育成委員会との合同委員会を開催する予定である。
- (2) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金について
- ① 平成24年度支給開始者に対して、25年度の継続受給の意思確認を行った。24名中1名が継続を希望しなかった。その理由は無事に卒業でき、国家試験も合格して大学病院での研修が決定したからということであった。
  - ② 平成25年度支給開始者に対し送金先の確認を行った。
  - ③ 赤枝医学研究財団に必要書類を送付した。
  - ④ 平成23年度ならびに24年度受給者に対し、レポートの提出を依頼した (3月29日付)。
  - ⑤ 教育委員会において、募集要項の「各県1名」という表記について各県により大学数が異なるため「各大学1名以内」としたいということになった。西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部に変更の可否を図りたい。[資料：教育 1]
- (3) 海外派遣について
- ① (株) 明治からの寄附金は平成24年度で終了したが、寄附金残があるため今後4~5年の派遣は実施できる見込みである。海外派遣についての今後の予定ならびに内規をまとめた [資料：教育 2]。
  - ② 5月31日の合同委員会で募集要項をまとめ、2014年・2015年海外派遣予定者の募集を開催する。この募集要項の変更はよりよい人材を派遣するために必要な事項であると考えている。多くの応募

をいただきたい。

**海野信也理事**「資料の『長い期間大学で業務している医師が派遣されることが派遣事業の目的として合致する』という表現は、大学側の論理に偏りすぎているのではないか。」

**八重樫伸生理事**「この部分は再度検討したい。臨時総会の教育の報告でも修正のコメントを入れたい。」

**佐川典正議長**「総会での報告では、『大学』となっている部分を『専門医教育関連施設』と修正していただく問題ないのではないか。」

**小西郁生理事長**「それで正確になると思うので、それをお願いしたい。」

**吉川史隆理事**「募集の推薦依頼は各大学に送られるが、市中の専攻医指導施設でも若手の教育を行っており、これへの配慮も必要だと思う。」

**八重樫伸生理事**「了解した。」

③The 99<sup>th</sup> Annual Congress of KSOG 2013 & the 18<sup>th</sup> Seoul International Symposium

(Grand Hilton Seoul Hotel, Convention Center, Seoul, Korea / Sep 27 (Fri) ~ Sep 28 (Sat), 2013 / 募集人数 : 5 名) の派遣募集を開始した (応募締切 5 月 17 日 (応募状況により締切延期の可能性あり))。

**八重樫伸生理事**「KSOG から本年 9 月のソウルでの学会に招待状が来た。今月中に若手 9 名の推薦をする必要があり、各大学には案内を出しているが、並行して、過去の経験者など若手に教育委員会からお願いすることを了承いただきたい。」

**嘉村敏治理事**「日韓合同カンファレンスでは、テーマが生殖内分泌となるので生殖・内分泌委員会の峯岸 敬先生と相談して、演者と座長各 3 名を決めさせていただいた。これに加えて 9 名の先生を招待したいということである。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 学術講演会時の「若手医師企画」について

若手医師企画の費用対効果など委員・役員の先生方からご意見をいただいたので教育委員会で検討したが、横の連繋など所期の目的を達成したと思われるので、第 65 回学術講演会で行われる第 5 回若手医師企画をもって一旦終了する。

第 66 回学術講演会時には学術集会長のご協力を得て、今までの若手医師企画委員・海外派遣経験者などの集合委員会を企画する予定である。

(5) 用語集・用語解説集 (書籍版ならびに電子版 [タブレット端末専用]) / 産婦人科研修の必修知識 2013 (電子版 [タブレット端末専用]) 発刊について [資料 : 教育 3]

① 用語集・用語解説集書籍版 : 8,000 円 (税込み・送料学会負担 / 5 月中旬発刊予定)

用語集・用語解説集電子版 (用語解説集拡張機能付き) : 初期 5,200 円、平成 26 年 1 月 1 日以降 6,100 円

② 産婦人科研修の必修知識 2013 電子版

産婦人科研修の必修知識 2011 書籍版を大幅に見直した電子版を 6 月 1 日を目処に発刊予定である。

産婦人科研修の必修知識 2011 書籍版購入者 (学会に書籍版奥付に掲載の学会シンボルマーク (クーポン) を送付していただき、ID パスワードを取得された方) : 10,500 円 (用語集・用語解説集電子版 (用語解説集拡張機能付き) /

産婦人科研修の必修知識 2013 電子版 : 8,200 円

\*この金額設定はApple社の規程に沿ったものである。

- ③電子書籍を実際に試していただくために、第65回学術講演会会場においてiPad 100台に必修知識2013(用語解説集拡張機能付き)を搭載し、無料貸し出しを行う。なお、このiPadには学術講演会のプログラム・抄録も収録されている。

(6)書籍発刊関係

- ①産科婦人科用語集・用語解説集(改訂第3版:冊子版)を4月25日に発刊した。  
②産科婦人科用語集・用語解説集ならびに産婦人科研修の必修知識2013電子版は6月1日を目処に発刊する予定である。  
③会員より訴訟に際し、相手方弁護士より資料として「産婦人科研修の必修知識」を提出されたことに関し必修知識が学会の公式見解と見なされるのか否か等につき問い合わせがあった。弁護士である平岩敬一先生とも相談しながら対応した。

(7)第65回学術講演会時のiPad貸し出しについて

産科婦人科用語集・用語解説集ならびに産婦人科研修電子書籍を搭載したiPad、iPad mini合計200台を今回の学術講演会会場において貸し出しをするので、多くの方に体験していただきたいと考えている。

(8)「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

4月30日現在、入金済6,459冊、校費支払のため後払希望53冊。

(9)「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について

4月30日現在、入金済1,527冊、校費支払のため後払希望13冊。

10)地方連絡委員会(落合和徳副理事長欠席につき、小西郁生理事長)

(1)会議開催

地方連絡委員会を5月11日(土)11:30~13:00に開催予定である。なお開催場所は、ロイトン札幌20階パールホールABとなった。[資料:地方連絡1]

III.理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1)広報委員会(嘉村敏治委員長)

(1)会議開催 なし

(2)JOB-NET公募情報について [資料:広報1]

(3)ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料:広報2]

(4)ホームページアクセス状況について [資料:広報3]

(5)Newsletter12号に掲載の各記事をHP Reason for your choiceのコーナーに掲載した。

(6)製薬会社等6社へHP バナー広告趣意書を渡しバナー掲載検討を依頼した。

2)未来ビジョン委員会(吉村泰典委員長) 特になし

### 3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 福島県への医師派遣支援について [資料: 震災対策 1]

岡井崇委員長「医師派遣については、来年3月までの担当大学を決定した。それ以降も支援が必要となる可能性はあり、これ以外の大学にもよろしくご協力をお願いしたい。」

### 4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

4月30日現在、入金済14,694冊、後払希望44冊。

②産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011の残部が僅少となったため、800部の増刷を決定した。

費用は約100万円を見込んでいる。

③会議開催

評価委員会で検討されたCQについて、作成委員会と評価委員会の委員長、副委員長、代表者で協議する会を4月13日に開催した。

④5月11日15時30分より札幌プリンスホテル国際館パミール6階「美瑛」で「産婦人科医診療ガイドライン—産科編 2014 第1回コンセンサスミーティング」が開催される。

⑤ガイドライン CQ605 解説中記事の不都合について、「胎児風疹感染が疑われる場合の羊水検査について」として本会ホームページに掲載した。[資料: ガイドライン 1]

(2) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

4月30日現在、入金済11,379冊、後払希望32冊。

②4月14日に大阪・千里ライフサイエンスセンターで「産婦人科医診療ガイドライン—婦人科外来編 2014 第1回コンセンサスミーティング」が開催された。

③5月10日13時30分より札幌プリンスホテル国際館パミール6階「美瑛」で「産婦人科医診療ガイドライン—婦人科外来編 2014 第2回コンセンサスミーティング」が開催される。

### 5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長)

(1) 日本医学会利益相反委員会から、「日本医学会分科会における COI マネジメントの現況とその課題」および「日本製薬工業協会の会員会社へのアンケート調査について」の委員会報告を受領した。

### 6) 医療改革委員会 (海野信也委員長) 特になし

### 7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 会議開催

5月10日、第65回日本産科婦人科学会学術講演会 男女共同参画・女性の健康週間委員会企画シンポジウム打ち合わせ会を開催の予定である。

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料: 男女共同 1]

(3) 女性の健康週間 2013 活動報告について [資料: 男女共同 2]

- (4) 第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会にて託児所に関するアンケートを実施の予定である。  
[資料:男女共同 3]

## 8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長)

### (1) 会議開催

- ① 5 月 11 日に産婦人科サマースクール打合会を開催する予定である。
- ② 5 月 31 日に第 1 回教育委員会と合同で委員会を開催する予定である。

### (2) 第 7 回産婦人科サマースクールについて

#### ① 募集について

5 月 15 日より募集を開始した (応募締切は 6 月 30 日)。

#### ② 若手医師

各大学のご協力があり、若手医師 29 名にお手伝いをいただくことになった。  
サマースクール終了時に感謝状にて謝意を表したい。

#### ③ プログラムに関して

1 日目は例年通り、3 分野講演ならびに実技指導、2 日目は講義の後、若手医師企画を予定している。

### (3) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

- ① 第 3 回産婦人科スプリング・フォーラムの様子を DVD にて作成中であり、完成次第、各大学に送付予定である。また、第 65 回学術講演会時に DVD を会場にて放映予定となっている。

- ② 第 4 回スプリング・フォーラムについて

平成 26 年 3 月 1 日 2 日の土日で開催予定としていたが、理事会との重複が判明し開催予定会場である京都平安ホテルに問い合わせたが 2 月 15 日 16 日しか空きがなかったため、名古屋—大阪間で 3 月 8 日 9 日開催可能な会場を急遽探すことになった。

もしも適当な会場が見つけれられない場合には 2 月 15 日 16 日の両日に京都平安ホテルで開催する予定である。

## 9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長)

- (1) 臨床研究審査委員会規約の改定について [資料:臨床審査 1]

**水沼英樹委員長**「情報管理委員会の規約との整合性を取るための改定を行った。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長)

- (1) 日本医療安全調査機構より「診療行為に関連した調査分析モデル事業」報に対する統括責任者等の推薦依頼を受領した。[資料:医療安全 1]

- (2) 日本医療安全調査機構より評価委員候補者リスト作成依頼を受領した。

**岡井崇委員長**「各ブロックの責任者は継続していただき、評価委員の推薦をお願いしている。」

## 11) 公益事業推進委員会 (石原理委員長)

- (1) 株式会社ツムラから、本会若手医師育成業務などへの一般寄附金の申し入れがあった。年間 200 万円、期間は特に定めず長期ということである。委員会でサマースクールを含めて、寄附金を利用する企画を検討中である。

## 12) 情報管理委員会 (竹田省委員長)

(1) 情報管理委員会規約について [資料: 情報管理 1]

竹田省委員長「本会の登録事業で収集されているデータの管理のための具体的な審査手続きについて、委員会規約や提出様式に落としている。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

(1) 5月31日、第2回委員会を開催の予定である。

井坂恵一委員長「ロボット手術などの先進医療対応と保険収載を目指す目的でこの委員会を立ち上げている。」

## III. 平成25年度臨時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料: 総会 1、2]

## IV. その他

以上

